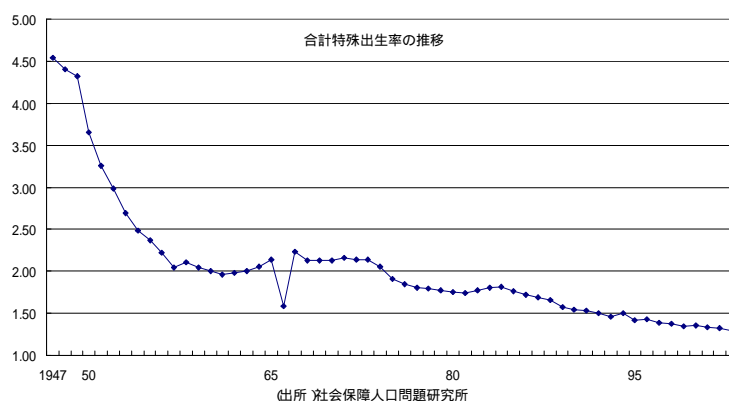


# 少子化社会と家族 働き方の多様化と保育サービスの充実

2004.11.5.  
日本経済研究センター  
八代尚宏

1

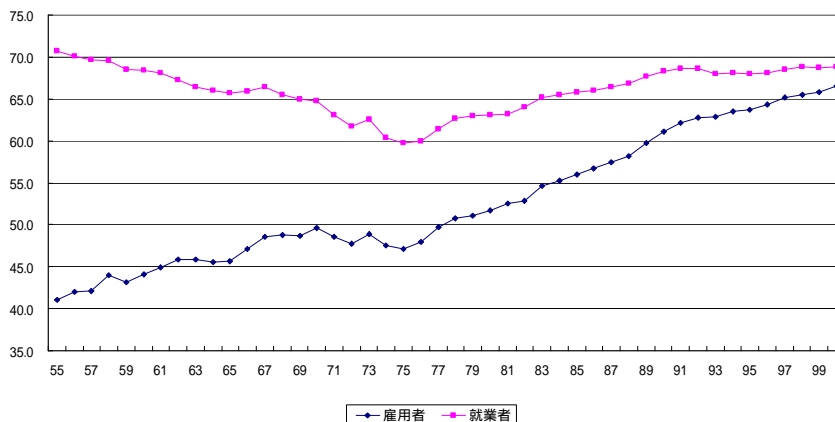
## 家族の行動と出生率低下の要因 社会学的な説明と経済学的な説明の違い



2

## 1970年代半から一貫して高まる女性の就業率 高学歴化・専門的職種への就業分野の拡大

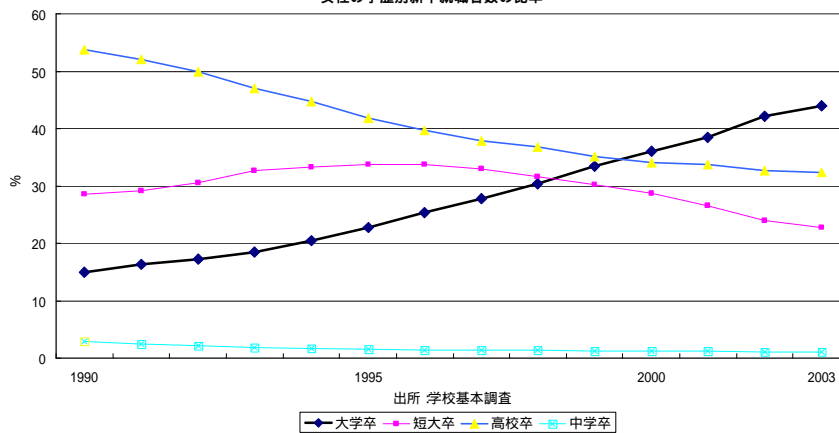
男性に対する女性の雇用・就業比率



3

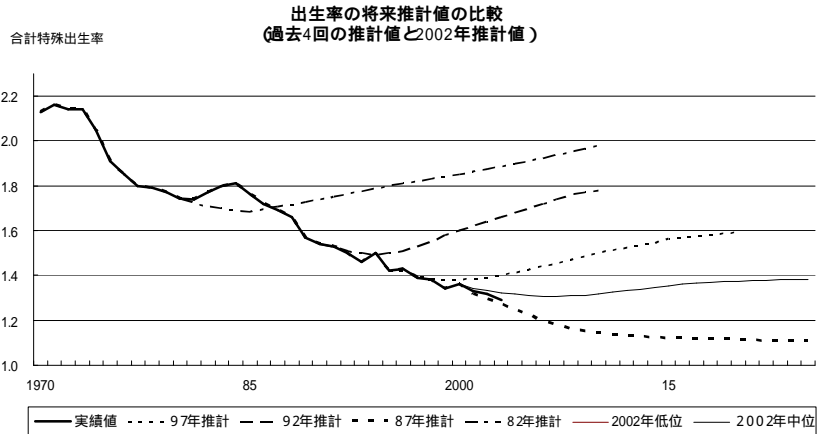
## 女性雇用者の高学歴化の進展 サービス産業化と子供数減少が追い風

女性の学歴別新卒就職者の比率



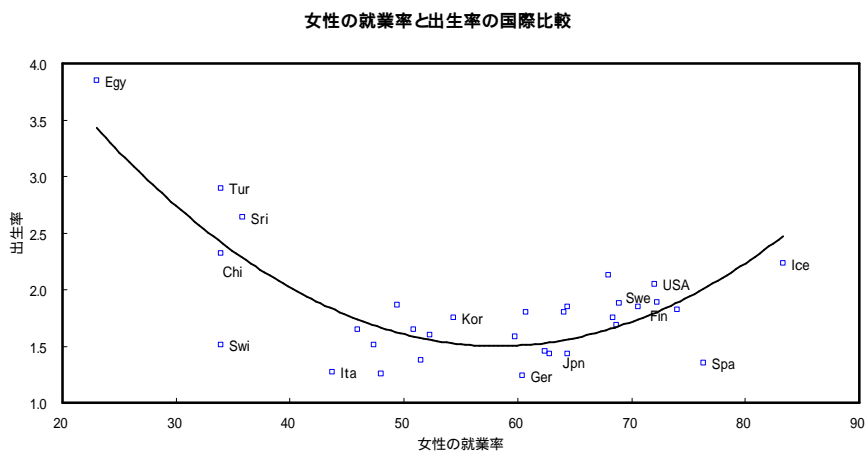
4

## 繰り返される出生率の過大見通し 女性就業拡大 = 子育ての機会費用増加のメカニズム



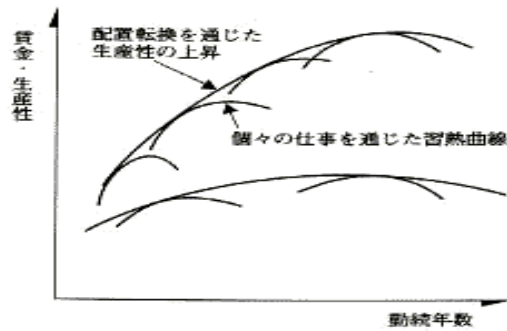
5

## 女性の就業率と出生率のU字型の関係 制度改革進めば正の相関も可能



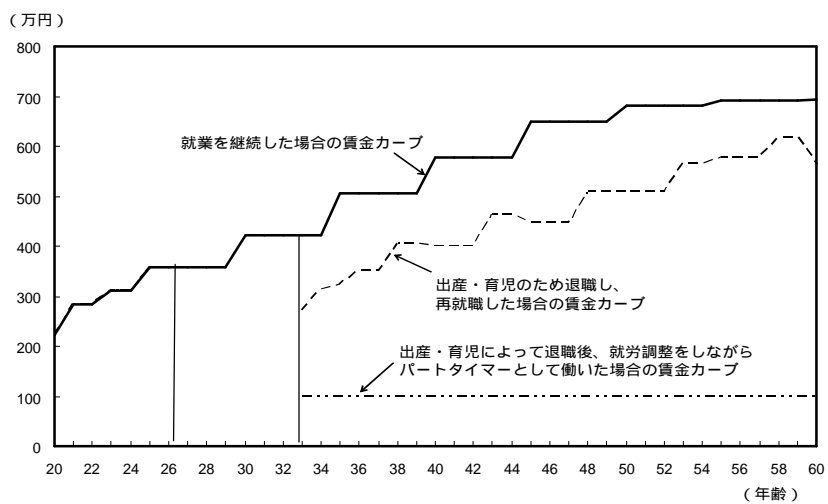
6

## 雇用保障・年功給の固定的雇用慣行 職場での配置転換・転勤を通じた技能形成 職場と家族との固定的な役割分担の要因



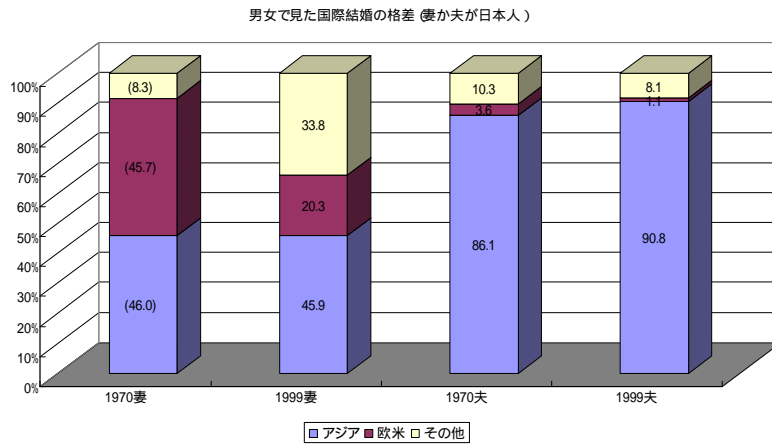
7

## 子育ての最大の費用は良い就業機会の喪失 出産退職後に職場復帰できない雇用慣行



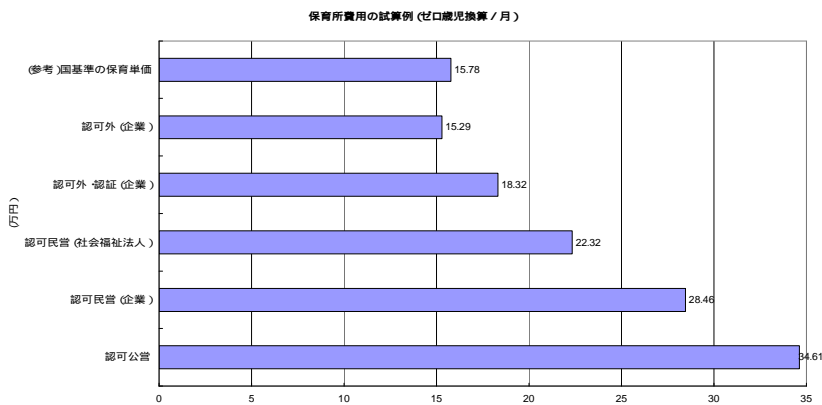
8

## 男女間で大きく異なる国際結婚の相手 地域社会にとってより大きな課題



9

## 効率的な育児支援サービス 児童福祉法と家族の就業支援との矛盾 設置主体により大きく異なる保育所コスト



10

## 少子化時代の家族の考え方

- 旧い家族形態への保護から新しい家族への支援へ。
- 多様な働き方や家族への選択に中立的な社会制度
- 対等な個人を経済単位とした精神的な結びつき中心。
- 結婚・子育てに関する男女間での非対称性の改革。
- 世帯単位から個人単位への改革で、働くことが不利にならない税・社会保険制度への改革。
- 農家等自営業での家族経営協定の促進。
- 子供の社会的扶養の制度「介護保険に対応した「保育保険」。保育を公的福祉からサービス産業へ。